

2011年8月10日

上海洋山深水港及び保税区的状況について

上海産業情報センター
横江 隆弘

今回「上海洋山深水港」を訪問することができたので、洋山深水港の概要と最近の状況及び洋山深水港を取り巻く保税区的状況について報告します。

1 上海洋山深水港について

洋山深水港は、すでにご存じのように 2005 年 12 月に上海市の東南約 30 キロ離れた杭州湾に浮かぶ大洋山、小洋山の 2 つの島に建設された巨大コンテナ港湾及びコンテナターミナルです。



この洋山深水港は、中国の経済発展とともに、輸出入の貨物・コンテナの量が急増することに伴い、従来の上海港では取り扱いのキャパシティを大きく超えることとなり、超大型コンテナ船の入港が可能な水深 15 ㍎以上の大水深埠頭の建設要求に応えるべく建設された大港湾です。

当時まで利用されていた長江沿岸の黄浦江に展開していた上海港や外高桥地区では、水深が 10 ㍎程度であり、満潮時に合わせて入港しなければならないという厳しい条件がありました。

水深 15 ㍎を確保できる港の建設地として、白羽の矢が立ったのが、この洋山という地ですが、ここに辿り着くためには、全長 32.5km の「東海大橋」を渡らなければなりません。因みにこの東海大橋は、片側 6 車線で逆 S 字カーブを描いております。

2005年の第1期工事完成時点で、埠頭（パース）の延長が1,600メートルで、年間220万TEU（20フィートコンテナで220万個分）の取扱いが可能になっていましたが、現在第3期工事まで終了しており、第4期工事の最中です。この4期工事が終了すると、埠頭数は30にのぼり、年間1,500万TEU以上のコンテナを取り扱うことができるようになるということです。

そして現在、毎月300便以上のヨーロッパ、中南アメリカ、北アメリカ、アフリカ、地中海などの遠洋航路路線が就航しております。日本を含むアジア航路は、距離が近く、コンテナ船も比較的小型のため、ほとんどが外高橋地区の港を利用しています。



2 洋山深水港を取り巻く保税区の状況について

上記で述べてきました洋山深水港は、2005年12月10日に稼働された中国初めての保税港区「洋山保税港区」の港区域2.14平方kmであります。洋山保税港区は、この港区域の他に、上海市側に属する陸域6平方kmがあります。

洋山保税港区は、水上交通として、洋山深水港を持つほか、産業区多様埠頭と内河埠頭の2つの埠頭を持っています。産業区多様埠頭は、埠頭の全長が7.8km、水深10メートルで、2万トン級船舶の停泊が可能であります。また、内河埠頭は、水深は3メートルであり、長江主航路と繋がっております。空港までは、浦東空港まで25kmで、虹桥空港まで58kmです。このほか、2012年末までには、地下鉄が開通し、臨港新城、臨港産業区を経て上海中心部と繋がる予定になっているということです。

この洋山保税港区陸上区域は、検査試験区・港湾補助区・倉庫物流区・国際中継区・購買配送区・加工製造区・商業貿易サービス区などの区域により、国際中継、国際仕入れ、配送、中継貿易及び輸出加工等の特殊機能を果たすことができます。また、この陸地域は、臨港新城区及び重装備製造産業区に

も隣接しております。

さらに、臨港物流園区が総面積 21 平方 km で計画されており、主として自営物流園区、国際物流園区（非保税地区）、とこの洋山保税港区陸上区域という3つの機能による区分けがなされております。重点建設として、保税物流・輸出加工センター、非保税物流センター、自営物流センターが挙げられているほか、港湾関連物流サービス業、第3者物流サービス業、高付加価値現代サービス業、グリーン物流産業も今後発展していくものとして期待されているところです。

3 3つの保税区の統合管理

2009年11月に、上海総合保税區管理委員会が設立されました。この上海総合保税區管理委員会は、上海市政府の分枝機構として、「洋山保税港区」、「外高橋保税區」（外高橋保税物流園区を含む）、及び「浦東空港総合保税區」を統一的に管理しております。

現在、この「三港三区」が連携していますので、各々の特性を生かしながら、また独自の優位性を発揮しつつ、国際航運発展総合試験区に基づいて、上海国際航運センターの核心になっております。とりわけ洋山保税港区は、国際水運発展総合試験区を建設し、国際中継、現代物流、商品展示、貯蔵リース、先物決済業務などの発展に寄与しているようです。

上海産業情報センターでは、今後も、市場活性化で物流・輸送需要が急増していくと思われるこれらの状況に注視していきたいと考えております。